

月影



第63号

平成三十一年二月一日發行
浄土宗西山禅林寺派
常林院

雪のうちに

仏の御名をととなふれば

つもれる罪ぞ

やがて消えぬる

法然上人



音もなく静かに
降り積もる雪のように

何気なく作った罪が

知らず知らず

心に積もっていく

日の光が

ゆっくり雪を

とかすように

お念仏を称えると

積もった罪が

やがて消えてゆく



永観堂だより
 久我儼昭管長
 晋山式

昨年十月。色づき

始めた永観堂で、永観堂禅林寺第九十一世法主、久我儼昭猊下の晋山式が厳修されました。晋山式とは、「山に晋む式」という意味です。山は寺のこと、つまり新しい住職がお寺に入る式のことです。晋山式は開門式から始まります。閉じられた門の前で読経し、管長猊下が開門の偈を発せられると、ゆっくり門が開き、新しい管長猊下を迎え入れるのです。

中、ゆっくりと練り歩かれしました。放生池を通過して阿彌陀堂へ入堂され、本尊みかえり阿彌陀如来に晋山を報告されました。そして、阿彌陀堂から約六百人の参列者が待つ御影堂へ移動され、晋山式の法要が始まりました。法要中、晋山の決意を宣べる晋山之疏を奉読され、法燈を継承されることを宣言されました。常林院からは檀信徒代表として総代様に参加していただきました。来賓者 浄土宗各本山、清水寺、唐招提寺、法隆寺、門川京都市長、西脇京都府知事ほか。



常林院だより

彩寺記



先代住職参回忌法要

昨年末、十二月二十二日。当寺先代住職、松原玄輝上人の参回忌法要を勤めました。月日の経つのは早いもので、先代が遷化してから二年がたちました。

法要では、組寺法類寺院二十二ヶ寺に読經をしていただきました。

法要中、本堂に読經が響く中、内陣へ進み、お焼香をしました。

供養していただくことの有り難さと、供養し続けることの責任を感じる事ができた参回忌法要でした。

檀信徒の皆様を代表して、総代様にお参りいただき、お焼香をしていただきました。



あれこれ

仏教用語

「果報は寝て待て」ということわざがあります。

良いことは焦って求めなくても、待っていれば自然とやって来るものという意味です。

ところで、仏教では因果応報という言葉があります。因果とは原因の「因」と、結果の「果」があ

果報

らわしているように、人の行いや考えの善悪に対し、必ずそれに応じた結果を招くことをいいます。

「因果」は、どちらかといえば悪い行いによって悪い結果を招く悪因果の意味に使われることが多く、反対に、善き行いが善き結果をもたらす、善因果のことを用いるときは「果報」を使うことが多いようです。幸せな人のことを「果報者」と言います。



仏教歳時記



初灯し 尼手作りの 絵蠟燭

相津光子

初灯明

年が明けて、初めて仏前に明かりを灯すことを初灯といひます。

寺院で勤める修正会などで灯す明かりは、無事に新年を迎えられたことに対する仏様への感謝の心をあらわします。

各家で新年を迎えて、仏壇に初めて灯するうそくの明かりも初灯といひます。



絵ろうそく

お釈迦様は、医者が患者の症状に合った薬を処方するようにな、その人の悩みに応じた導き方で説法されていたそうです。これを対機説法といひます。◆こんな話があります。大切な我が子を失った女性が悲しみのあまり我を忘れ、我が子の亡骸を抱きかかえて「誰かこの子を生き返らせてください」と町中を叫び歩き回っていました。しだいに亡骸は腐り始めますが女性は何も言いません。◆見かねたお釈迦様が女性に声をかけました。「私が治してあげよう。治すには芥子の実がいります。ただし今まで死者を出したことがない家

雑記抄 ~心の処方箋~

からもらつてきなさい」女性は何も言いません。◆この家々を訪ね歩きまゝです。泣きながら話す人。同じように我が子を亡くした人。しだいに女性は落ち着きを取り戻し、再びお釈迦様の所へ戻りました。「芥子の実は見つかったか」「いいえ、もうありません。この子を茶毘にふしてやります」◆「死」は誰にでも起こる出来事。口には出さなくても、みんな同じように悲しみを背負って生きていくことに、この女性は気づくことができたのです。